

犀川・御影大橋コース

景観美・犀川「大橋から見る清流の情景」

歴史ある犀川大橋から御影大橋にいたる自然景観は、春は桜が咲き誇り、夏は川面から吹く涼風が川岸の若葉を揺らし、浅瀬では四季を通じて水鳥たちの群れ集う姿が楽しめるなど、誰もが懐かしく思い出す景色の一場面でしょう。

犀川大橋 → ^{しんめいぐう}神明宮 → ^{うほういん}雨宝院・室生犀星記念館 → 中村高島用水 →
中村神社 → 春日神社 → 御影大橋 → 犀川神社





●神明宮のケヤキ

犀川大橋のたもとから広小路方面に進むと、大木の枝ぶりがあらわれ、目を奪われます。「お神明さんの大ケヤキ」と呼ばれる神明宮のケヤキで、樹高33m、幹周7.83m、枝巾25mと県内最大級を誇り、金沢市の指定保存樹の第1号となっています。

●室生犀星ゆかりの町

神明宮の裏手から千日町方面へ歩を進めます。犀川大橋詰では、泉用水が少しだけ姿をあらわします。歴史を感じる水路ずい道杭門や護岸がみられ、犀川からの豊富な水を緩やかにまちなかへと運んでいきます。

この千日町には、文豪・室生犀星が育った場所である雨宝院や、平成14年(2002)8月、犀星生誕地跡に「室生犀星記念館」が開館しました。記念館では、有名な「ふるさと遠きにありて思ふもの」などの詩が掲載された「抒情小曲集」の完全原稿や他の作品、実際に使用していた遺品など多数展示されています。犀星の人となりや文学に思いをはせるには絶好の場所です。



室生犀星記念館

●中村高畠用水

通りの左、用水がみえてきます。

中村用水と高畠用水を同じ取水口とした、中村高畠用水です。「歴史のまちしるべ」によると、藩政初期からある農業用水とのこと。敬栄寺とそれに寄り添うように立つ老木の間を縫って流れゆく様は、歴史の深さが偲ばれます。



●中村神社

用水に沿って進み中村神社へと向かいます。

中村神社の拝殿は、金沢城二ノ丸の舞楽殿を移築したものです。境内にはケヤキ、イチョウ、サクラなどが緑の空間を形成し、まちなかにかげがえのない自然を残しています。

●春日神社の樹林

春日神社の樹林は400本を超え、参道右の樹齢300年、樹高15m、幹周3mのイチョウの巨木をはじめ、ケヤキ、タブ、クロマツなどの大木、ツバキ、ツツジ、ヒサカキなどの低木で構成されています。

夏は深い緑と淡い緑が競い合い、秋の終わりには輝く小判を敷きつめたような落葉と、社殿の朱色のコントラスト、まさに錦秋きんしゅうの感極まります。

春日神社の樹林は、まちなかに残された貴重な鎮守の森です。

●犀川神社から犀川大橋へ

御影大橋から犀川右岸を進みます。

犀川神社の境内には古く堂々とした枝ぶりのスタジイやエノキの大木などがみられ、実を求めヒヨドリやカワラヒワも集います。

犀川緑地には、犀川自転車道がこの犀川神社を起点として、終点の健民海浜公園まで8.1Km続きます。早朝サイクリングやマラソン大会などが開かれ、水辺レクリエーションの場として親しまれています。

緑地を犀川大橋に向かって進みます。サクラやヤナギの並木が続き、大橋に近づくとつれ、堰せきからの水音が激しく迫ってきます。